

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立鳥羽高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校 ～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～
(2)	育みたい 児童生徒像 ○学校に誇りを持ち、地域社会をささえる若者として、自らの成長を実感し、自己肯定力、コミュニケーション能力を向上させている。 ○それぞれの進路実現に向けて、基礎的・総合的な学力や社会的・職業的自立に必要な能力と態度を身につけている。 ○学校の教育活動や地域貢献活動が、鳥羽・伊勢志摩地域の活性化につながり、地域を支える市民に成長する。 ○国際交流活動に取り組み、豊かな国際感覚を身につけている。 ○命の大切さや他者の立場を理解し、自らを律し、思いやりを持って行動できる。 (・地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りをもって成長する生徒 ・以下に示す「7つの力」を身につけた生徒 行動力・思考力・コミュニケーション能力・創造力・表現力 自己肯定力・自己管理力)
	ありたい 教職員像 ○教育活動を通じて教職員が生徒の成長を実感し合い、誇りと自信を持って学校の組織力を向上させる教職員。 ○授業を大切にし、生徒の基礎学力の定着・向上に取り組むとともに、本校の特色を生かした地域学習や体験的活動を通して総合的な学力を育むことに前向きに取り組む教職員。 ○一丸となって子どもに向き合い、様々な職種、若手と経験豊かな職員が対話を通じて学び合っている教職員集団。 ○コンプライアンスを遵守し、地域社会の一員として豊かな社会性を身につけた、信頼される教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 高校生活の充実（基礎学力の定着・発展的学力の伸長・部活動・仲間づくり）、進路実現 【保護者】 子どもの学力・コミュニケーション力・社会性の向上、進路希望の実現、安全で安心して学べる学校 【地域】 観光・防災等の地域の活性化への貢献、生涯学習・住民交流の場の提供、生徒の健全育成 【企業・大学等の進路先】 社会的・職業的自立に必要な生徒の基礎学力・基本的生活習慣の育成・定着	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 【保護者】 子どもの進路実現、安全・安心の学校づくり 【中学校】 生徒の進路保障、中高連携の推進 【地域】 地域社会の活性化、生涯学習の場の提供 【企業・大学等】 基礎学力の定着・向上、基本的生活習慣の育成	連携する相手への要望・期待 【保護者】 P T A活動等生徒の成長支援への連携・協力 【中学校】 生徒の継続した成長支援のための情報共有、中高連携の推進 【地域】 地域学習活動の機会・素材・人材の提供、生徒の健全育成活動での連携・協力 【企業・大学等】 キャリア教育や地域学習等の素材・人材・場の提供

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p>○前後期選抜受検者数は、昨年度比で1.4倍増となった。今後も鳥羽高校の魅力をPRしてってもらいたい。また何をきっかけに鳥羽高校を選んだのかを入学生に聞くなどして、さらに選ばれる学校づくりをしてほしい。</p> <p>○コロナ禍の中でも徐々に外部との交流は再開し始めた。以前は小学校などの出前授業なども行っていた。地域との交流を増やし、地域の中で生き生きと活躍している姿をまたみたい。</p> <p>○系列を見直し魅力化を図る場合、観光都市「鳥羽」を学びのフィールドとしたものを取り入れてもらいたい。</p>
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>○全教科において、授業規律の確保を目標に取り組を進め、落ち着いて授業を受ける雰囲気確保できた。</p> <p>○基礎学力の客観的な把握と定着のため、「基礎力診断テスト」を導入、基礎力勉強会を実施した。全校生徒および全教職員が、基礎学力の充実を目標に持つことができた。</p> <p>○令和4年度入学生より、一人一台端末の購入が始まった。全ての教科科目で、ICTの効果的な利活用が望まれている。今後も、教職員間で活用事例を共有していきたい。</p> <p>○特別指導は以前に比べて減少しているが、1年生等で学習意欲の低下等による指導が増加した。</p>
	<p>○学校の情報発信は計画的に進めることができた。Instagramや学校通信は好評を得ている。</p> <p>○働きやすい職場環境づくりについては、課題が残る結果となった。学校全体での仕事量の削減や、分掌内で仕事の割り振りを再定義する必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<p>1 組織的な授業研究、授業改善及び教材開発に取り組み、子どもたちの基礎学力の定着・発展的学力の伸長を図り、一人ひとりの進路実現につなげる。</p> <p>2 観光教育の視点での地域学習を推進し、体験的活動を通して、確かな学力や自尊感情、自らの未来を切り開く意欲・態度を育てる。</p> <p>3 学力の向上とともに、部活動の活性化を促進し、地域社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(ア) 総合学科の特色を活かして、自己の生き方・在り方を認識させる教育を推進します。</p> <p>(イ) 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進します。</p> <p>(ウ) 体験的活動を通して地域学習を推進し、地域社会に貢献できる人材を育成します。</p> <p>(エ) 学びにおけるメディアリテラシー教育を推進します。</p> <p><具体的な教育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究活動（産業社会と人間、総合的な探究の時間、鳥羽学） ・ 系列授業、自由選択科目 ・ 学びの基礎診断、基礎力養成講座、少人数教育 ・ デュアルシステム（観光・福祉） ・ 学校図書館機能の拡充 など
<p>学校運営等</p>	<p>1 総合学科ならではの教育力を高め、より良い教育を提供できるよう教員が互いに学び合う環境の充実に努める。</p> <p>2 全職員がまとまって子どもに向き合い、一人ひとりの成長を支援できるよう、組織力の向上と前向きな学校文化の醸成を図る。</p> <p>3 組織のしくみの改善や働きやすい職場づくりに取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒の学力の客観的な把握と学力に不安のある生徒への継続的な指導に取り組む。</p> <p>① 学力に不安のある生徒に対する継続した指導の実施。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学び、生徒主体の授業づくりに向けての実践研究に取り組む。</p> <p>① 生徒による授業評価を実施(12月)。</p> <p>② 地域と連携した授業公開(中学校教員・塾等対象):年2回設定・実施。</p> <p>(3) 授業等における発表や総合学科発表会等、生徒の学びの成果を発表する校内外の機会を充実させる。</p> <p>① 校内外での公開発表会の実施:年間8回以上。</p> <p>【成果指標】 ※授業アンケートの結果より</p> <p>① 「積極的に授業に参加している。」と回答した生徒の割合95%以上。</p> <p>② 「この授業は、実力アップに効果がある。」と回答した生徒の割合95%以上。</p>	<p>【活動指標】</p> <p>(1) ① 基礎力勉強週間及び基礎力診断テストの実施 3回(4月、9月、1月)</p> <p>○ 教員を対象とした「基礎力診断テスト研修会」を実施 9月</p> <p>(2) ① 全教員に授業評価結果のフィードバックを行った。</p> <p>② 授業公開週間等、年3回(11日)実施した。</p> <p>(3) ① 総合学科研究大会、起業体験プログラム等、公開発表会を年間10回以上実施した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 「積極的に授業に参加している。」と回答した生徒の割合93%</p> <p>② 「先生に気軽に聞くことができる。」と回答した生徒の割合94%</p>	◎
生徒指導の 充実	<p>【活動指標】</p> <p>(1) 挨拶の推進。頭髪や服装等、基本的な生活習慣の確保や規範意識・コミュニケーション能力向上の指導を全職員で徹底し、自尊感情を育む声かけを行う。</p> <p>① 挨拶指導の徹底。</p> <p>② 制服等の着こなし指導の徹底。</p> <p>③ 毎朝の登校指導、授業時間中の校内巡視の実施。</p> <p>(2) 人権教育推進計画及び人権教育カリキュラムに基づき、計画的な人権学習を推進する。</p> <p>① 公開人権 LHR の実施:年1回</p> <p>【成果指標】 ※学校生活についてのアンケートより</p> <p>① 「学校生活を送る中で、安心して学習することができる。」と回答した生徒の割合81%以上。</p>	<p>【活動指標】</p> <p>(1) 毎日教員が、登下時に挨拶や着こなしの指導、昼休み校内巡視や生徒への積極的な声かけを行った。</p> <p>(2) ① 外部人材を活用した公開人権講演会・がんについての講演会等を実施した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 「安心して学習することができる。」と回答した生徒の割合88%</p>	

	<p>②「困ったことや心配事などを、先生や友だちに相談することができる。」と回答した生徒の割合83%以上。</p> <p>③「困難だと思うことでも、前向きに考えて挑戦している。」と回答した生徒の割合73%以上。</p>	<p>②「先生や友だちに相談することができる。」と回答した生徒の割合79%</p> <p>③「前向きに考えて挑戦している。」と回答した生徒の割合77%</p>	
キャリア教育の充実と進路保障の取組	<p>(1) 確かな進路実現に向けた細やかな進路指導とコミュニケーション力の向上に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 全教員による実践的な面接指導の実施。</p> <p>【成果指標】 ※学校生活についてのアンケートより</p> <p>① 「学校外の活動に自ら参加することで、将来の進路を考える機会となっていると思う。」と回答した生徒の割合75%以上。</p>	<p>(1) 【活動指標】</p> <p>① 夏季休業中に全教職員による面接指導を実施した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 「将来の進路を考える機会となっていると思う。」と回答した生徒の割合74%</p>	
学校の魅力化・活性化と地域学習の推進	<p>【活動指標】</p> <p>(1) 「産業社会と人間」等の授業で地域産業の発展に注目し、それを通して自己の在り方生き方について考え、主体的に豊かな社会を築く意欲や態度の育成を図る。</p> <p>① 外部講師や鳥羽市等と連携し、起業体験を軸にした産業・経済学習や地域課題解決学習に年間20時間以上取り組む。</p> <p>(2) デュアルシステム及びインターンシップの円滑な実施と課題改善に努める。</p> <p>(3) 各教科、系列の授業や「産業社会と人間」等での学校図書館利活用機会の充実を図る。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 「産業社会と人間」等の授業を通じて、進路や社会参画への意欲向上に繋がったと考える生徒が80%以上。</p> <p>② 「産社または光・創タイムなどを通して、自分の生き方が明確になってきた。」と回答した生徒の割合70%以上。</p> <p>③ 授業における学校図書館利用:年間100時間以上。</p>	<p>【活動指標】</p> <p>(1) ① 外部講師や鳥羽市等と連携し、年間20時間以上達成。</p> <p>○ 「産業社会と人間」で、IR説明会、とぼっ子市場の開催等、開催した。</p> <p>○ インドネシアの高校、松島高校(宮城)等、学校間連携交流を行った。</p> <p>(2) デュアルシステムを3年次17人、インターンシップ2年次19人が体験した。</p> <p>(3) 読書推進に関わる県事業等、イベントも実施した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 「進路や社会参画への意欲向上に繋がった」と回答した生徒割合98%</p> <p>② 「自分の生き方が明確になってきた」と回答した生徒の割合71%</p> <p>③ 授業における学校図書館利用189時間</p>	◎

改善課題

- 引き続き、全教職員が生徒に寄り添い、授業規律の確保及び基礎学力の充実を目標に努める必要がある。
- 地域との交流や小学校の出前授業などを通じて、生徒一人ひとりが輝き生き生きとした姿が見られた。また、1年次の「起業体験プログラム」学習や2・3年次の系列の取組は、効果がとても高かった。一方で、教員がその準備・調整等に関わる時間・負担が増加した。
- 令和4年度入学生から一人一台端末の購入が始まり、今年度は教員用のパソコンも授業活用が行いやすいものに更新された。ICTの効果的な活用方法を共有し、授業改善に活かしていきたい。
- 特別指導は以前に比べて減少しているが、学習意欲の低下やコミュニケーション不足などによる生徒への支援・対応が増加した。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信・広報強化の取組	(1) 学校教育活動の情報発信と広報を強化する。 【活動指標】 ① 学校公式インスタの更新: 週1回以上。 ② ホームページの更新: 週1回以上。 ③ 学校情報誌の中学生への配布: 年間3回以上。 【成果指標】 ① インスタフォロワー数: 500以上。	(1) 【活動指標】 ① 学校公式インスタの更新: 63回/年 ② ホームページの更新: 41回/年 ③ 鳥羽市の広報誌に学校情報を掲載: 3回(7月・10月・2月) ○ 鳥羽市内中学校の生徒・保護者・教員等に学校魅力を伝えるアンケートを実施。(11月) 【成果指標】 ① インスタグラムフォロワー数: 640(令和6年3月15日現在)	
働きやすい職場環境づくり	(1) 業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間の縮減を図る。 【活動指標】 ① 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合90%以上。 ② 定時退校日の定時退校率: 全職員の90%以上。 ③ 予定通り休養日を実施できた部活動の割合95%以上。 【成果指標】 ① 1人当たりの月平均時間外労働25時間以下。 ② 年360時間を超える時間外労働者数0人。	(1) 【活動指標】 ① 1時間以内に終了した会議の割合: 83% ② 定時退校率: 82% ③ 休養日を実施できた部活動の割合: 100% 【成果指標】 ① 1人当たりの月平均時間外労働: 17.0h	

	<p>③月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人。 ④1人当たりの年間休暇取得日数10日以上。</p> <p>(2)「信頼される学校であるための行動計画」の取組推進。</p> <p>【活動指標】</p> <p>①コンプライアンスミーティングの実施:年3回以上。</p>	<p>②年360時間を超える時間外労働者数:6人 ③月45時間を超える時間外労働者の延べ人数:26人 ④1人当たりの年間休暇取得日数:23.7日</p> <p>(2)【活動指標】</p> <p>○コンプライアンスミーティング年3回(7月・11月・3月)実施。</p>
--	--	---

改善課題

- 学校のWebページやインスタグラム、鳥羽市広報の学校情報ページなど、好評を得ている。更なる情報発信の方法について、検討していきたい。
- 令和6年度、教員人数の減少に伴い、学校全体での仕事量の削減や分掌内で仕事の割り振りを再検討する必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○鳥羽高校に行きたい、通わせたいと考えた時、各学年1クラス規模の学校のため、生徒の進路保障や学校行事など、様々な場面で制限されないか不安である。</p> <p>○とぼっ子市場の開催や生徒発表など、中学生やその保護者等に本校生徒の楽しそうな姿を見せることや、情報を発信することが大切である。一方、教員の時間に余裕がなく、教員の負担が心配である。</p> <p>○入学検査について、1クラス定員30人の募集はできないのか。また、地域の学校としての検査を検討できないのか。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○1年次の「起業体験プログラム」学習や2・3年次の系列の取組など、地域と連携した活動は、効果がとても高かった。一方で、その準備・調整等に教員が関わる時間がかなり多かった。生徒の様子を踏まえ、生徒の主体的活動や協働的な学びをさらに深めていきたい。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○教員人数の減少に伴い、学校全体での仕事量の削減や分掌内で仕事の割り振りを再検討する必要がある。</p>